豊田町（とよだちょう）

豊かさゆえの領地争い

鎌倉時代の中期以前から当地一帯が東大寺関係領地「豊田荘」であったことは、嘉禄元（一二二五）年や弘安四（一二八一）年など複数の古文書記録から確認できます。

ところで鎌倉時代後期・徳治二（一三〇七）年の文書では、この東大寺領の一部が吉野山・金峰山寺に譲渡されており、さらに室町時代・永享八（一四三六）年の春日大社文書などによると、このころ興福寺と春日大社も「豊田荘」に領地を得ています。当初の東大寺領を興福寺関係が圧迫するかたちで中世を過ごし、動乱の戦国時代を経て江戸時代を迎えたと考えられます。「豊田村」と呼ばれた江戸時代、旗本佐藤氏の知行地でした。また、天明五（一七八五）年に新口・上品寺・豊田の三村が、地黄村との間で飛鳥川用水争いを起こしています。

明治一五年ごろ戸数四二戸・人口二〇七人で、米・麦・たばこ・綿などを産し（町村誌集）、同二二年に多村（現田原本町多）大字となりました。昭和三一年に田原本町大字となり、同三二年に橿原市へ編入され、同年八月に「橿原市豊田町」となりました。付近の人口増加に伴い同四九年、橿原消防署の北出張所が当町に創設されています。